

2020年7月25日(土)

オンラインセミナー「医学史研究者と考える 感染症の過去と未来」(Part 1) 第2回  
日本における感染症史研究の現状と課題(廣川和花) 文献リスト

[地域資料の掘り起こし動向]

[「疫病の脅威を語る 前橋・旧上川淵村の昭和初期の資料発見」](#)『上毛新聞』(2020/05/07)

[「安政のコレラ禍伝える文書確認 岡山県立記録資料館 大庄屋ら団結」](#)『山陽新聞』  
(2020/06/02)

[「100年前の流行、小学校日誌に教訓 第2波への備えは」](#)『朝日新聞』(2020/06/17)

豊田市郷土資料館 企画展「スペイン風邪とコロナウイルス」

安曇野市文書館 企画展「来た道 忘れ去られた感染症・銃後の守り」

吹田市立博物館 ミニ展示「新型コロナと生きる社会～私たちは何を託されたのか～」

浦幌町立博物館 特別展「コロナな時代のマスク美術館」

福井県文書館 [「1918年の福井県下インフルエンザ・パンデミック\(「スペインかぜ」\)](#)(コラム ふくい記憶に出会う)

[疾病史/医療と公衆衛生の通史]

富士川游『日本疾病史』1912年

山崎佐『日本疫史及防疫史』克誠堂書店、1931年

川上武『現代日本医療史』勁草書房、1965年

厚生省医務局編『医制百年史』1977年

菅谷章『日本医療制度史』原書房、1976年

菅谷章『日本医療政策史』日本評論社、1977年

小栗史朗『地方衛生行政の創設過程』1981年

新村拓編『日本医療史』吉川弘文館、2006年

島崎謙治『日本の医療—制度と政策(増補改訂版)』東京大学出版会、2020年(原著2011年)

[医学史のトレンド/画期]

見市雅俊・高木勇夫・柿本昭人・南直人・川越修『青い恐怖 白い街—コレラ流行と近代ヨーロッパ』平凡社、1990年

速水融・町田洋編『講座 文明と環境7 人口・疫病・災害』朝倉書店、1995年

見市雅俊・斎藤修・脇村孝平・飯島渉編『疾病・開発・帝国医療—アジアにおける病気と医療の歴史学』東京大学出版会、2001年

川越修・友部謙一編『生命というリスクー20世紀社会の再生産戦略』法政大学出版局、2008年

川越修・鈴木晃仁編『分別される生命ー20世紀社会の医療戦略』法政大学出版局、2008年  
秋田茂・脇村孝平編『人口と健康の世界史』ミネルヴァ書房、2020年

[研究状況レビュー]

飯島渉「「医療社会史」という視角ー20世紀東アジア・中国を中心に」『歴史評論』787号、2015年

飯島渉「感染症と権力をめぐる歴史学」歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題 2 世界史像の再構成』績文堂出版、2017年

石居人也「近代日本のハンセン病と「絶対隔離」」『歴史地理教育』859、2016年

鈴木晃仁「医学と医療の歴史」社会経済史学会編『社会経済史学会創立70周年記念 社会経済史学の課題と展望』有斐閣、2002年

鈴木晃仁「医学史の過去・現在・未来」『科学史研究』269号、2014年

廣川和花「「和解」の時代の日本近代ハンセン病研究：「顕彰」と「検証」を超えて」『同時代史研究』10号、2017年

二谷智子「伝染病の侵入と防疫」石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 1 幕末維新时期』東京大学出版会、2000年

脇村孝平「医療・公衆衛生システム」社会経済史学会編『社会経済史学会創立80周年記念 社会経済史学の課題と展望』有斐閣、2012年

脇村孝平「東アジアの疫病・衛生史の一断面ー検疫制度と国際関係(19世紀後半と戦間期)」和田春樹ほか編『岩波講座 東アジア近現代通史 別巻 アジア研究の来歴と展望』岩波書店、2011年

宮前千雅子「ハンセン病」友永健三・渡辺俊雄編著『部落史研究からの発信 第3巻 現代編』部落解放・人権研究所、2009年

[言及した文献]

飯島渉「歴史疫学 (historical epidemiology) という課題ー風土病の資料を「つくる」」『歴史学研究』994号、2020年

石谷誓子「日本におけるスペイン風邪の流行と既存の結核との関連」『三田学会雑誌』99巻3号、2006年

猪飼隆明『近代日本におけるハンセン病政策の成立と病者たち』校倉書房、2016年

岡部信彦・和田耕治編『新型インフルエンザパンデミックに日本はいかに立ち向かってきたか』南山堂、2020年

加藤真生「日清戦争におけるコレラ流行と防疫問題」『日本史研究』689号、2020年

鈴木晃仁「治療の社会史的考察ー滝野川健康調査 (1938年) を中心に」川越修・鈴木晃仁

編『分別される生命—20世紀社会の医療戦略』法政大学出版局、2008年

鈴木晃仁「近代日本におけるジフテリア疾病統計の分析」『三田学会雑誌』97巻4号、2005年

Suzuki, A, “Measles and the Transformation of the Spatio-Temporal Structure of Modern Japan”, *Economic History Review*, 62(2009).

Suzuki, A. “Smallpox and the Epidemiological Heritage of Modern Japan: Towards a Total History”, *Medical History*, 55(2011)

鈴木則子『江戸の流行り病—麻疹騒動はなぜ起こったのか』吉川弘文館、2012年

高林陽展「メディカル・アーカイブズから社会へ—ベスレム病院における博物館・ギャラリーの試みから学ぶ」『歴史学研究』994号、2020年

友部謙一「人口からみた生命リスク—近世・近代日本における花柳病罹患とその帰結」川越修・友部謙一編『生命というリスク—20世紀社会の再生産戦略』法政大学出版局、2008年

友部謙一「近世・近代日本の花柳病（梅毒）・死産・出生力の因果関係をめぐって：慶應義塾、その可能性の中心に」『近代日本研究』34巻、2017年

永島剛「名古屋の近代と伝染病」『近代都市の衛生環境 [名古屋編] 別冊』近現代資料刊行会、2015年

永島剛「近代東京における水系感染症流行と都市環境」『近代都市の衛生環境 [東京編] 別冊』近現代資料刊行会、2009年

永島剛「感染症統計にみる都市の生活環境—大正期東京の腸チフスを事例として」『三田学会雑誌』97巻4号、2005年

永島剛「大正期日本における感染症の突発的流行—発疹チフス 1914年」『三田学会雑誌』99巻3号、2006年

永島剛「近代日本における疫学的変化と衛生政策の展開—近代化と東京の水系感染症」『歴史学研究』878号、2011年

永島剛「疫病と公衆衛生の歴史—西欧と日本」秋田茂・脇村孝平編『人口と健康の世界史』ミネルヴァ書房、2020年

永島剛・市川智生・飯島渉編『衛生と近代—ペスト流行に見る東アジアの統治・医療・社会』法政大学出版局、2017年

馬場わかな「日本における赤痢の流行と感染症対策の変遷 1890-1930年」『三田学会雑誌』99巻3号、2006年

速水融『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ—人類とウイルスの第一次世界戦争』藤原書店、2006年

廣川和花『近代日本のハンセン病問題と地域社会』大阪大学出版会、2011年

廣川和花「ハンセン病「隔離」とは何か」『現代思想』48巻7号、2020年

廣川和花「ハンセン病者の社会史—日本の〈近代化〉のなかで—」秋田茂・脇村孝平編『人口と健康の世界史』ミネルヴァ書房、2020年

藤野豊『日本ファシズムと医療—ハンセン病をめぐる実証的研究』岩波書店、1993年  
二谷智子「1897年コレラ流行時の有力船主による防疫活動—宮林彦九郎家の事例」『社会経済史学』75巻3号、2009年  
松岡弘之『ハンセン病療養所と自治の歴史』みすず書房、2020年  
山本俊一『日本コレラ史』東京大学出版会、1982年  
横田陽子『技術からみた日本衛生行政史』晃洋書房、2011年  
渡辺理絵「近世農村社会における天然痘の伝播過程—出羽国中津川郷を事例として」『地理学評論』83巻3号、2010年  
Susan L. Burns, *Kingdom of the Sick: A History of Leprosy and Japan*, Honolulu: University of Hawai'i Press, 2019.